



1. 地域経済と課題

- (1) トランプ関税が世界を翻弄しているいっぽうトランプ関税も迷走している。関税政策にかぎらず経済政策は「市場」の洗礼により修正せざるを得なくなる。戦後秩序を支えてきた自由貿易体制の危機に世界が立ちつくんでいますが、混乱と収束は経済理論の発展に大きな材料を与えられます。
※NY ダウ：1/17 43,487.87\$（トランプ大統領就任前） 4/8 37,645.59\$（相互関税発表後）
- (2) 「関税ブーメラン」という言葉がある。「iPhone が 1 台 50 万円」（西日本新聞 4/12 など）が喧伝されたが、「50 万円でもアメリカでは iPhone は作れない」、「中国・深圳では人件費が安いからではなく技術が深いから作れる」（News Picks 4/11 収録 News Picks 森川支局長は『アップル帝国』（文芸春秋社）の共同著者）。
スマホは「相互関税」から除外→「スマホ関税」へ？
- (3) 唐津商工会議所は全国の商工会議所とともに 4 月 3 日付で「米国自動車関税措置等に伴う特別相談窓口を開設。地域経済への影響をきめ細かに把握して対応していきたい。※全米商工会議所のコメント、「…最終的には関税のコストを消費者に転嫁しなければならないという不安、それ以上の事態を懸念している。」
- (4) 連合が 3 月 14 日に発表した 2025 年春季労使交渉の第 1 回回答集計によると、ベースアップ（ベア）と定期昇給（定昇）を合わせた賃上げ率の平均は 5.46%あった。33 年ぶりの高い水準だった 24 年の同時期の 5.28% から 0.18 ポイント上がった。連合が 14 日 10 時時点の 760 組合への会社回答をまとめた。
- (5) 唐津市の 5 月 1 日時点の人口は 113,056 人です。1 月 1 日時点は、113,890 人でこの 4 か月で 834 人減少した。来月には 11 万 3 千人を切る可能性が大きい。人口は労働力そのものである。嬉野には外国人向けの日本語学校が開校した。佐賀県は「さが外国人材雇用サポートセンター」を本年 7 月にオープンします。

2. 経営支援から見える地域経済と課題

- (1) 令和 6 年度第 4 四半期(令和 7 年 1～3 月)は、巡回訪問 400 件・窓口対応 516 件の経営支援を行った。
4 月からの補助金公募開始に合わせ、新事業展開や生産性向上に関する相談が増えている。

3. LOBO 調査(早期景気観測)&中小企業景況調査

(1) LOBO 調査【令和 7 年 4 月調査】

業況 DI は、消費マインド低迷等が足かせでほぼ横ばい。先行きは、トランプ関税への懸念から慎重な見方。

- ・全産業合計の業況 DI は、▲18.5（前月比+0.7 ポイント）

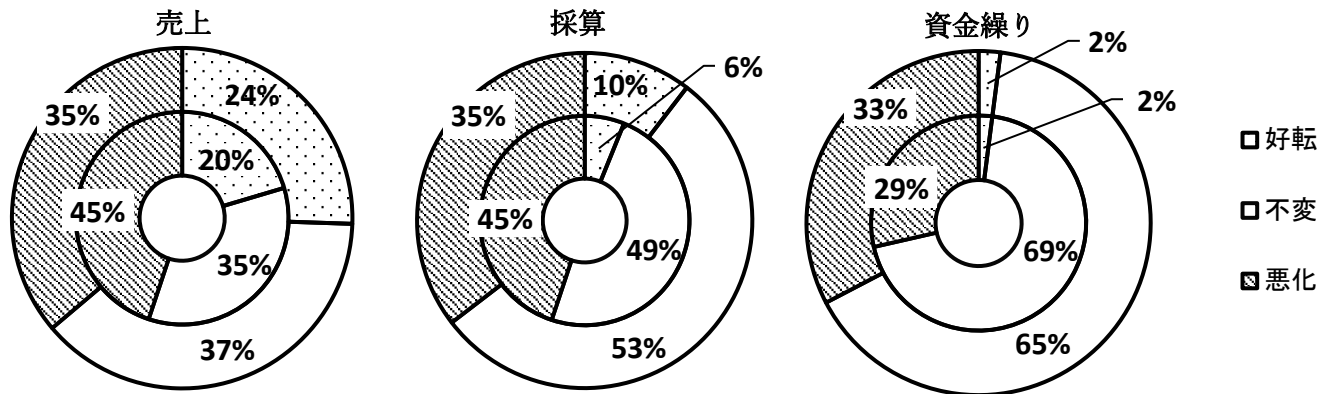
全国：サービス業は歓送迎会需要や観光需要により、ハレの日関係の利用が増えた飲食店が押し上げ、改善した。製造業は、サービス業からの引き合い増加で、飲食料品関係を中心に改善した。小売業では新年度需要はあるものの、消費マインドの低迷が足かせとなり、ほぼ横ばいとなった。建設業は資材価格や労務費の高騰で悪化し、卸売業は建設業からの引き合い減少やガソリン価格の高騰で悪化した。新年度需要や観光需要は好調なもの、人手不足が継続しているほか、ガソリン価格やコメ価格をはじめとしたコストが増加している。今後への不安感から消費マインドが低迷しており、中小企業の業況はほぼ横ばいにとどまった。

九州：業況 DI は改善。サービス業では、歓送迎会需要や観光需要が堅調に推移し、飲食・宿泊関係で売上・採算が改善した。事業者からは、人手不足に対してはスポットワーカーの派遣サービスで対応しているが、手数料などが高いため、他のコスト削減により原資確保に努める、という声が聞かれた。製造業では、半導体関連の設備投資需要や、サービス業の需要増加により、機械器具関係や飲食料品関係で売上・採算が改善した。

(2) 中小企業景況調査【令和 7(2025)年 1 月～3 月調査】

円グラフの外側：前年同期（2024 年 1～3 月）と比べた今期（2025 年 1～3 月）の状況

内側：前々年同期（2023 年 1～3 月）と比べた前年同期（2024 年 1～3 月）の状況



直面している経営上の問題点（各業種の最も多かった問題点）

製造業：原材料価格の上昇 小売業：需要の停滞 建設業：従業員の確保難
卸売業：店舗・倉庫の狭隘・老朽化、需要の停滞 サービス業：材料等仕入単価の上昇

4. 唐津の街のトピックス

- (1) 歌舞伎役者の坂東彌十郎が「唐津の夜のびっくりな出会い」と題して唐津焼窯元と「たまとり」「唐津ござこん」でのひと時の思い出を記されている。唐津焼と食は有力な観光コンテンツであることがわかる 
- (2) 京町の「ペペタマヤ」跡が東京の事業者売却された。隣接するビルとの一体的な開発が検討されている。
- (3) 福岡 R 不動産の社員の方のコラム「なんだか、今、唐津が気になる」。「日頃は物件そのものにフォーカスしている私たち。けれど今回は、・・『街そのもの』に目を向けて・・。選んだのは、私が一番気になっている場所—唐津」。14 頁に亘る文は唐津の観光や街づくりに大いなる示唆を与えてくれる。 
- (4) 新興町の「プレサージュ」がレストランガイドブック「2025 ゴ・エ・ミヨ (Gault & Millau)」に掲載された。フランスではミシュランより価値があるという人も。食の街・唐津の価値が高まります。
- (5) 東京で料理教室をしていた人が昨年末に唐津に移住してこられた。「生徒さんは何人ですか?」。「実はオンラインの料理教室です。それで、東京にいる必要がないんです」。「どうして、唐津に?」。「食材がいいから」。うれしい会話です。
- (6) 唐津が国産唐辛子の一大産地になっている。クラベルジャパン 1 社（委託生産を含む）で、国産唐辛子で国内最大の規模であるとのこと。京都や長野の有名唐辛子店にも納入されている（予定を含む）。製品の値段設定も極めて強気。宮島醤油とのコラボ商品などラインナップも広がっている。本誌 Vol. 9 参照。
- (7) “STAY in KARATSU”（東唐津）の北村氏は現在（4/26）海外 110 か国目となる国（スウェーデン・ヘルシンボリ）を旅行中。“EDITORS SAGA”でも紹介されている（106 か国）。この経験が施設の計画に活かされている。ロビーの本棚には『地球の歩き方』がびっしり。あの藻谷浩介氏は 142 か国訪問（4/28 時点）。
- (8) セレクトショップのビームスが唐津焼作家とのコラボを進めている。石井義久さんや竹内磨澄さんとのコラボではバンブルやペンダントがある。販売の一端もビームスが担ってくれるのが利点である。
- (9) 呼子朝市通りに旧熊本邸が『カキ氷&宿泊施設』としてオープン予定。NPO からつヘリテージ機構、TETUSIN DESIGN などが「鯨乃町興」を取り組んできたもの。まずはカキ氷店『甚六果実店』が 5 月 23 日オープン。
- (10) 城内にある K 邸が乗田貞勝さんの絵を展示するギャラリーとして整備される。庭も素晴らしい。『産業・観光と文化が息づく街・唐津』（第 3 次唐津商工会議所中期計画）の一端を担うことが期待される。

唐津商工会議所では、『KCCI 地域経済四季報 E クォーターリー』を発行します。市内の商工業、街づくりについての情報をお待ちしています。唐津商工会議所 TEL：72-5141 FAX：72-5146 Email：kcci@karatsu.or.jp